

令和4年度 総務経済常任委員会 所管事務調査報告書

2023年2月20日

富士見町議会
議長 名取 久仁春 様

総務経済常任委員会
委員長 五味 仙一

総務経済常任委員会は、2023年1月26日、27日の両日で埼玉県寄居町、埼玉県横瀬町、群馬県川場村を訪問し所管事務調査を行いました。

1月26日は、町と商工会で実施した商業環境調査の結果を、議員の視点からどのように解析するかをテーマに昨年の12月に開催した議員勉強会の際に、講師の「しんきん地域創生ネットワーク（株）」様より、町づくりの先進の取り組みとしてご紹介いただいた、埼玉県寄居町の「中心市街地活性化事業」、埼玉県横瀬町の「官民連携プラットフォーム よこらぼ」の視察研修のため両町に伺いました。

翌1月27日は、年間220万人を集客する「川場田園プラザ」を筆頭に様々な村づくりを展開する群馬県川場村の視察研修を行いましたので、その成果を所管事務調査報告書として報告します。

記

訪 問 日 2023年1月26日

訪 問 先 埼玉県寄居町

視察参加者 五味仙一 三井新成 矢島 尚 小倉裕子 牛山基樹
名取久仁春

視察テーマ ① 中心市街地活性化事業について
② YORI MaMa（ヨリママ）事業について

①中心市街地活性化事業について

視察施設 寄居町役場全員協議会室
寄居駅南口駅前道路及び区画整備、拠点施設 Yotteco 現地視察

視察目的 駅周辺の交通体系と商店街の振興策について

視察内容 中心市街地活性化基本計画の概要について

- 基本的な考え方として
寄居駅南口の中心市街地は、かつて交通の要衝として栄えたが、人口減少、商業機能の低下により、往来が著しく減少するなど、賑わいが失われている状況であった。この課題を解決するために、平成30年度より5か年計画とした中心市街地活性化基本計画を推進し、都市整備事業の実施によるコンパクトな市街地の形成などとともに回遊性の向上による賑わい再生を目指すとの説明。
- 基本方針として
町全体の活力創造と広域交通・観光拠点として歩きたくなる・歩いてお得

なまちを目指した取り組みを図るとの説明。広域来訪者にも対応したおもてなしのまちづくりとして、中央通り線、拠点広場等の整備を起爆剤として、都市機能の集積、集客施設の整備・強化を図る。また、活力・魅力を創造するまちづくりとして、市街地回遊行動を誘発するまちづくりを推進するとの説明。

・目標として

都市基盤施設の整備とともに、広域からのあらゆる世代の来町の動機付けをし、集客と回遊性の向上を推進する。また、歩きたくなる・歩いてお得なまちの具体化を図るために、来訪者へのおもてなしの提供と、滞在時間の向上に寄与する立ち寄り場所・機会の充実を目指し、また、地域の商業活動を支える住まい手の継続居住の確保や新たな居住者の増加と新たなビジネスチャンスへの参画者の誘発を推進するとの説明。

資料

基本計画主要事業と概要

集客と回遊性の向上

・都市計画道路中央通り線整備事業	町事業主体	国交省補助
・寄居駅南口駅前広場整備事業	町	国交州補助
・寄居駅南口駅前拠点整備事業	町	国交省補助
・川の国はつらつプロジェクト	県・町	県補助
・大規模商売店との販売促進連携事業	商工会・商店会・まち会社	商工会単費

立ち寄り場所・機会の充実

・創業支援事業	商工会	商工会単費
・空き店舗等活用補助金	町・商工会	国交省補助
・空き店舗ゼロプロジェクト	商工会	空き店舗ゼロ
・マルシェ事業	商工会・商店会・まち会社	中活ソフト

住まい手・担い手づくり

・寄居スタイルの住宅環境提供事業	町	町単費
・定住促進事業	町	国交省補助
・新婚応援家賃補助事業	町	町単費
・子育て支援ネットワークづくり事業	町	町単費



寄居駅南口駅前

中心市街地活性化基本計画

最終年度



寄居駅南口駅前拠点施設「Yotteco」の視察

まとめに

本年度末において5か年計画は終了となる。基本方針に基づいての指標と令和3年度時点での目標値を見ると、広域来訪者にも対応したおもてなしのまちづくりにおける集客と回遊性の向上は、コロナ禍においても増加している。活力・魅力を創造するまちづくりについては、居住人口の社会増は微増となっているとの説明。全体を通して基本計画のハード面での整備は目的を達成できた。ただし、ソフト面での問題が山積しており、今後の維持・継続及び利用により、目標値に近づける努力が課題として残るとの説明がありました。

②YORI MaMa（ヨリママ）事業について

視察施設 寄居町役場全員協議会室

視察目的 子育て支援事業の参考事例を調査

視察内容 子育て中のママが自分に合ったライフスタイルで働く仕組みについて

- ・ 寄居町の女性活躍に関する包括連携協定による女性の活躍推進・雇用促進と安定・キャリア形成とスキル向上・女性同士のコミュニティの形成・情報の提供を目的とする。
- ・ 令和4年度の委託料予算として219万1千円
- ・ 登録者数 150人 稼働者数 143人 報酬平均約2万3千円
- ・ ヨリママ通信を発行し、パソコン業務をより実践的に体験していただくために、ママが作る寄居町の子育てメディアを開設。ママたちがライティング業務の体験で作成した記事が発信されているとの説明。

まとめに

町内の女性を対象に、なぜ就労できないかのアンケートを取ったところ、出産育児をしながらの就労の難しさを、50パーセント以上の方が指摘をされた。そこで在宅お仕事支援サービスを始め、電話対応や、文書作成等民間事業者とマッチングして運営会社が事業を行っている。報酬についても埼玉県の平均単価より2割程高い都心単価を設定し成果を上げている。

〈文責 三井新成〉

訪 問 日 2023年1月26日

訪 問 先 埼玉県横瀬町

視察参加者 五味仙一 三井新成 矢島 尚 小倉裕子 牛山基樹
名取久仁春

視察テーマ 官民連携プラットフォーム「よこらぼ」について

視察施設 エリア898(ヤクバ)
〈旧 JA 直売所を利活用し町民と町に関わる人達の交差点として作られた施設〉

視察内容 官民連携プラットフォーム「よこらぼ」は、地方を拠点に新しいことにチャレンジをしたい方々のアイデアやビジネスプランを横瀬町で活かすためのプラットフォーム。
2022年12月時点で提案は205件、採択は121件。
「よこらぼ」の採択検討でもっとも大切にしていることは、提案者・町民・町の3者それぞれに、しっかりとメリットがあることで、持続可能な地域社会を作るために、誰1人取り残さず、関わる全ての人が幸せになるプロジェクトを積極的に採択・応援するものと説明。
代表的かつ当委員会より事前にお聞きしたいプロジェクトに対して視察研修を行った。

採択 No. 29 小児遠隔医療相談による医療費適正化・子育て不安解消

プロジェクト概要

スマートフォンを使った遠隔医療相談サービスを導入することで、気軽に小児科医へ相談できる環境をつくり、子育ての不安の軽減を図る。また、医療費などへの影響も検証する。

横瀬町のサポート

- ・プロジェクト告知・参加促進施策への協力
- ・医療費データなどの官民データ連携
- ・補助金取得支援

採択 No. 35 関係人口創出プロジェクト



オープン&フレンドリースペース エリア898

プロジェクト概要

地域の人でも地域外の人でも気軽に集まれるスペースを確保・運営により、つながりの持てるコミュニティを形成し、横瀬町への関わりや地域愛の醸成を促進、関係人口を創出する。

横瀬町のサポート

- ・実施場所の提供
- ・プロジェクトメンバーの募集

採択 No. 3 6 コミュニティバスで、高齢者を日本一元気でアクティブに



横瀬町 コミュニティバス

プロジェクト概要

バスロケーションアプリ「見えバス」を試験的に導入し、高齢者への外出意欲を向上させるとともに、地元商店の活性化にもつなげる。また、横瀬町の魅力を全国に発信することで観光客・移住者の増加を目指す。

横瀬町のサポート

- ・説明会会場の提供
- ・運転手さんのスケジュール調整
- ・町民の方々への周知、チラシの設置・配布

採択 No. 5 3 横瀬獣害対策振興プロジェクト

プロジェクト概要

有害鳥獣対策の強化・狩猟の後継者確保・新たな観光資源（ジビエ）の創出を連動させ、町のさらなる活性化を図る。

横瀬町のサポート

- ・有害鳥獣の被害・対策・現状に関する住民への調査実施協力
- ・実証実験（罾シェアリング）に向けた地域住民へのアピールと実験実施の支援
- ・法的障壁（罾シェアリング・出荷自粛解除など）が発生した際の解決の支援
- ・ジビエ肉処理加工施設の設置に向けた支援と、用地の確保
- ・道の駅・地域外（都内など）でのプロモーション活動の支援・公認
- ・秩父地域の他の町・猟政連絡協議会等への働きかけ

採択 No. 5 4 電動キックボードシェアリングサービス「LUUP」

プロジェクト概要

「LUUP」は、電動キックボードのシェアリングによって、地元町民の新たな移動手段、また観光客の新たな観光めぐりの足となることで、地域活性化を図る。

横瀬町のサポート

- ・実証実験の場所の確保、プレスリリースの手伝い等
- ・地元警察署との連携や場所の確保等

採択 No. 9 3 不登校児童生徒に向けた好奇心の種まき事業

プロジェクト概要

様々な理由により学校に馴染めない子ども達、またはホームスクーリングで学ぶ子ども達へ学習機会を提供する。申請者らの研究者というバックグラウンドを活用し、自然体験や科学実験を始めとする実体験、リファレンスの紹介、専門家を始めとする多様な大人達との出会いなど、好奇心が芽吹く環境を用意する。これにより児童生徒に生まれたそれぞれの興味・関心に駆動された最適なテーマを設定し、課題解決型の学びを設計する。分野横断的に学ぶ中で、適時適切な教科学習の要素を抽出することにより、原籍校における授業の補習や基礎学力の向上につなげる。必要に応じて ICT 教材も合わせて用いることで効率的に取り組む。本事業の目的は、好きなことを発見し、それをやり尽くす体験を通し、自己肯定感・自己受容感を向上し、比較対象から開放された幸福の自分軸を確率するきっかけ作りを提供することにある。

横瀬町のサポート

- ・学校・教育委員会との連携支援
- ・学校を通じて児童生徒への事業の周知
- ・公共施設等での事業の周知
- ・学びに応じた最適な公共施設の提供

関連施設の視察

ちちぶ農業協同組合横瀬支店の、一部機能の本店への集約化に伴い遊休資産化する施設の有効活用として展開せられている地域のコミュニティスペース「オープン&フレンドリースペース エリア 8 9 8」と共に同支店敷地内に開設された公益財団法人日本財団「子ども第三の居場所」事業の助成を受け、「学校でも塾でもない子どもの学びの場」として 2022年7月に開設された NAZELAB「ナゼラボ」の新拠点を視察。



NAZELAB「ナゼラボ」の新拠点

1F 交流スペース
2F 学習室・図書館



NAZELAB「ナゼラボ」の新拠点

2F 学習室・図書館

まとめに

富田町長、井上副町長、若林議長、まち経営課の皆様が視察研修に参加され、熱意ある説明をしていただきました。

令和4年度総務省「ふるさとづくり大賞」において、行政と町民が力を合わせて創りあげてきた官民連携プラットフォーム「よこらぼ」の取り組みが評価され横瀬町が“優秀賞”を受賞されたこともあり、解説の言葉の強さを感じました。事業開始当初の苦勞話として、プロジェクト案件をどこの課が担当するかの盪回し状態で困った事をお聞きしましたが、現在では庁内総力戦で対応されているそうです。事業への資金援助等の質問に対し基本的には、横瀬町からは遊休資産や役場職員・町民のリソース提供のみとなる。ただし、応募いただくプロジェクトにフィットする補助金制度などがあれば、補助金申請のサポートなどは積極的に行うと説明。

〈文責 五味仙一〉



訪 問 日 2023年1月27日

訪 問 先 群馬県川場村

視察参加者 五味仙一 三井新成 矢島 尚 小倉裕子 牛山基樹
名取久仁春

視察テーマ

- ・農産物のブランド化や観光産業施設と連携した施策について
- ・(株) ウッドビレッジ川場の視察

視察施設

田園プラザ川場 ウッドビレッジ川場 雪ほたかライスセンター 川場スキー場

川場村の概要

群馬県の北部地域に位置し、日本百名山のひとつ武尊山の南麓に位置する。総面積 85.25 km²、人口 3,485 人の自然豊かな農山村。関越自動車道沼田 IC から 車で 10 分、基幹産業は農業。・米 (川場産コシヒカリ雪ほたか)・こんにゃく芋・りんごなど。

川場村のむらづくり

4つのキーワード…①農業プラス観光。②都市交流事業 (世田谷区 人口 90 万人)。③道の駅川場田園プラザ事業。④木材コンビナート事業。これらに新拠点構想 (むら役場新設) が含まれている。今回の所管事務調査で川場村役場担当者より全体的な取り組みは伺いましたが、主に①、③、④の事業について視察致しました。まずは、③道の駅 川場田園プラザ、約 6 万 m²ある敷地には自然を感じながら食事できる飲食店のテラス席が並ぶ。直売所では地元産の新鮮な野菜、デパ地下を意識した土産物店では 1 瓶 1,800 円の高級ヨーグルトやスイーツを目当てに行列ができる。全国の一般道沿いに 1,198 ヶ所ある道の駅の中でも集客はトップクラス。よみうりランドに匹敵する年間 200 万人 7 割以上がリピーター、そのうち 5 回以上訪れたコアなファンが 4 割を占める。96 年に開業してからずっと好調だったわけではない、05~07 年度は赤字に陥った。村は、村内で酒造会社を運営していた永井社長に運営を任せ、従業員の意識改革や接客技術の向上に取り組み、売れ行きを分析したうえで商品を開発するようにした。いつ来ても「変わった」と思われる店づくりを徹底した。村長の外山京太郎さんは道の駅の活気が川場村の活気につながる好循環ができたと言っていました。

次に④木材コンビナート事業の視察へ向かいました。途中、村役場駐車場で、世田谷区の小学生が交流事業を終えてバス 4 台で帰る場面に遭遇しました。村の間伐した木材を木質バイオマス発電。その電気を世田谷区 40 世帯へ売電。またバイオマス発電から出た熱をイチゴ栽培のハウスに供給。すべてにおいて一石二鳥どころか一石三鳥の取り組みには驚きでした。次に向かった川場スキー場、現在では NSD リゾート運営。支配人に一連の概要を伺ったあと施設案内をして頂きました。都内から 2 時間、お客さんのほとんどが 20 代~30 代の若い方々。牛山議員経営の JSBA 公認牛山基樹プロスノーボードスクールのスタッフも普段と違うスタイルで登場した本人にビックリ。雪が豊富で雪質もよく、館内の店舗はもちろん、導線やプライベート利用の空間もあり、支持されるスノーエリアだと感じました。



川場田園プラザ

カワバールーフ
〈大型避難施設〉



川場田園プラザ内

雪ほたか米を使用した
おにぎり屋さん

年間 4000 万円を売上げる

「川場スキー場が経営」

まとめに

今回の川場村での所管事務調査、川場村の取り組みは全てにおいて好循環に事業が展開されていると感じました。トータル的に物事を考えていることなど、今後の富士見町に役立てたいと思います。

加えて、それぞれの目的で訪れる方々に対してリピーターづくりが上手。またリピーターを更にコアの客層にする展開には驚きまし

〈文責 矢島 尚〉



バイオマス燃料加工施設

原材料ストックヤード

ウッドビレジ川場

バイオマス発電所



川場村産コシヒカリ

ブランド米「雪ほたか」

ライスセンター場内

生産者ごとの貯蔵施設